

<特集>

フィリピン共和国の小学校体育科教育

広富隆史 (智頭町立智頭小学校/前マニラ日本人学校)

はじめに

本研究は、フィリピン共和国（以降、「フィリピン」と記述する。）における小学校体育科教育のガイドラインを分析する。どのような計画で指導されているのかを明らかにし、日本との比較を通してフィリピンの教育課程を学ぶ。

また、現地校を訪問し、視察や訪問指導を行い、小学校体育科教育を中心とした小学校教育の現状を調査する。日本の体育施設や指導法との違いや共通点を考察することにより、今後の日本や日本人学校での授業改善や体育科経営に生かすものとする。

1. フィリピンにおける教育制度と体育科教育のガイドライン

1) フィリピンの教育制度

フィリピンは、初等教育6年間、中等教育4年間、高等教育4年間の「6-4-4制」をとっている。公立小学校は、全国に3万7000校以上あると言われている。1987年、憲法により義務無償教育となった。就学年齢は6歳からである。各学年は6月に始まり、翌年の3月末に終わり、4月、5月が長期休業となる。一般的に授業は月曜日から金曜日までの5日間で、首都マニラでは、多くの学校で2部授業制を採用している。国内では地域によって3部授業制もあるようである。これは、児童数に比べ教室の数が圧倒的に少ないためである。2部制の場合、午前の部は、6時ごろから12時ごろまで、午後の部は12時から16時ごろまでである。

表1 初等教育の教科・時間数 (教育省令2002年 第43号より)

	1日当たりの時間(分)					
	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
英語	100	100	100	80	80	80
フィリピン語	80	80	80	60	60	60
算数	80	80	80	60	60	60
理科・保健			40	60	60	60
マカバヤン(国民教育)				100	120	120
Sibika at Kultura(公民・文化)	60	60	60			
HKS(地理・歴史・公民)				(40)	(40)	(40)
EPP(家庭科・職業)				(40)	(40)	(40)
MSEP(音楽・美術・体育)				(20)	(40)	(40)
1日当たりの合計時間(分)	320	320	360	360	380	380

人口増加や財源不足に伴う教室(Teachingroom)、教科書(Textbook)、教員の海外流出や不足(Teacher)等、「教育の3T不足」と言われる現象が起き、公教育は、基礎学力の低下、貧困による中退者の増加など多くの問題を抱えている。就学率は99%に達しているものの、初等教育を6年間で修了するものは70%程度で、30%程度は留年・中途退学者という厳しい状況である。

公立の中等学校(ハイスクール)は、全国に6000校以上あり、義務教育ではないが、1988年度より授業料は無料となっている。カトリック系の私立学校では、「7-4-4制」をとっている学校もある。その他、私立学校やインターナショナル校では、公立学校とは別に、独自のカリキュラムで授業が行われている。

2) フィリピンの教育課程における体育科教育

フィリピンの教育課程は、2002年から基礎教育カリキュラム（BASIC EDUCATION CURRICULUM）に基づき実施されている。公用語である英語とフィリピン語の2言語による教育が実施されており、主に英語と理数系の教科は英語で、主に文科系の教科はフィリピン語で授業が行われている。書店で販売されている各教科の教科書を見ても英語、理数系の教科書は英語で、文科系の教科書はフィリピン語で構成されている。

体育科は独立した教科ではなく、マカバヤン（国民教育）の中に含まれている。マカバヤンとは、生活実習、体験学習の場であり、Sibika at Kultura（公民・文化）、Hekasi（地理・歴史・公民）、EPP（家庭科・職業）、MSEP（音楽・美術・体育）によって構成され、フィリピン語で実施されている。

3) BASIC EDUCATION CURRICULUM について

(1) 第1年と第2学年の体育科

体育科としてのガイドラインは示されていない。Sibika at Kultura（公民・文化）の中の伝統的なダンスやストレッチなどを中心に取り組みされている。学校によって違いはあるが、1週間に30分程度行っているようである。

(2) 第3学年の体育科

4年生以上の様に詳しく示されていない。簡単に以下の2つの内容が示されているだけである。

- a) 移動を伴う運動（歩く、走る、ホップ、跳ねる、ギャロップ、ジャンプ、滑る、スキップなど）をいろいろなスピード、高さ、方向、強さでできるようにする。リズムに合わせてたり、動物の動きをまねて寸劇にしたりすることができる。
- b) その場での運動（ストレッチ、押したり引いたりする、揺れるなど）をいろいろな高さ、強さ、姿勢、方向でできるようにする。リズムに合わせてたり、動物や自然の動きをまねて寸劇にしたりすることができる。

(3) 第4学年から第6学年の体育科

4年から6年生については、ガイドラインが存在する。以下にフィリピン語で書かれているガイドラインを独自に翻訳し、要約したものを以下に示す。

- a) 体育科の目的：身体活動を通して適切な体力を獲得し、基礎的な運動技能を身に付けること。健康や安全について正しい態度を身に付けること。各スポーツ、体操、ダンスを愛し、自国の文化に愛着を含め、社会的なよりよい態度とスポーツマンシップを身に付けること。
- b) 第4学年の体育科：健康を確実なものするために正しい姿勢を保つ十分な技術を養う。寸劇、体操、用具を使った運動、伝統的なダンスとゲームを行う。
- c) 第5学年の体育科：健康を確実なものするために正しい姿勢向上を続ける。移動を伴う運動とその場での運動、寸劇、体操、伝統的なゲームとダンス、様々な人数で用具を使って行う運動（バレーボール）を行う。
- d) 第6学年の体育科：運動の十分な技術が備わっていることが大切である。移動を伴う運動とその場での運動やそれらを組み合わせた運動、寸劇、体操、平均台、鉄棒、はしごによる運動、様々な人数で用具を使って行う運動（野球/ソフトボールとバスケットボール）、伝統的な外国のダンスやゲームを行う。

表2 からだの強化のための教育 (EDUCATION FOR THE STRENGTHENING OF THE BODY)

第4学年	第5学年	第6学年
<p>I 体のコントロール</p> <p>A.正しい姿勢</p> <ul style="list-style-type: none"> ・階段の上り下りをする, 座る, 話を聞く, 高いところに手を伸ばす。 ・扁平足, 肩が平行でない, 猫背, 内股, 蟹股などの矯正をする。 <p>B.より体を強くする運動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体力テスト(立ち幅跳び, 上体起こし, 長座体前屈, 15分間走か踏み台昇降) ・体を強くする運動(縄跳び, ジョギング, エアロビクス, シバ, 懸垂)を一人でやったり, 二人, チームで行ったりする。 	<p>I 体のコントロール</p> <p>A.正しい姿勢</p> <ul style="list-style-type: none"> ・階段の上り下りをする, 座る, 話を聞く, 高いところに手を伸ばす。 ・扁平足, 肩が平行でない, 猫背, 内股, 蟹股などの矯正をする。 <p>B.より体を強くする運動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体力テスト(立ち幅跳び, 上体起こし, 長座体前屈, 15分間走か踏み台昇降) ・体を強くする運動(縄跳び, ジョギング, エアロビクス, シバ, 懸垂)を一人でやったり, 二人, チームで行ったりする。 	<p>I 体のコントロール</p> <p>A.より体を強くする運動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体力テスト(立ち幅跳び, 上体起こし, 長座体前屈, 15分間走か踏み台昇降) ・体を強くする運動(縄跳び, ジョギング, エアロビクス, シバ, 懸垂)一人でやったり, 二人, チームで行ったりする。
<p>I 動きに対する指針</p> <p>A.移動を伴う運動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歌やリズムに合わせて, 動物の動きなどの寸劇をしたりする。(例:ブノで床磨き, 走る馬, バスケットの動き) ・移動を伴う運動をいろいろなスピードや強さ, 方向で行う。 ・安全について <p>B.手を使った運動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボールや棒などを持って運動する。 ・持ちながら回ったり, ジグザクに動いたり, いろいろな方向へ行ったりする。 ・安全に操作する。 	<p>I 動きに対する指針</p> <p>A.移動を伴う運動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歌やリズムに合わせて, 動物の動きなどの寸劇をしたりする。(例:下駄歩き, ヘビ歩き, バレーのスパイク, ペンキ塗りの動き) ・移動を伴う運動をいろいろなスピードや強さ, 方向で行う。 ・安全について <p>B.その場での運動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ストレッチング, 押ししたり引いたり, ターン, 揺れる運動などをする。 ・いろいろな高さ, スピード, 強さ, 方向で行う。体を使って丸や三角描く。 <p>C.手を使った運動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボールや棒などを持って運動する。 ・持ちながら回ったり, ジグザクに動いたり, いろいろな方向へ行ったりする。強弱をつけたりリズムに合わせて創作したりする。 ・安全に操作する。 	<p>I 動きに対する指針</p> <p>A.移動を伴う運動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手や足を使った連続した動き(ホップしてキックなど) ・移動したりその場での運動とコンビネーション ・安全について(例:雷の時どうすればよいか, 犬からの逃げ方) <p>B.手を使った運動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボールや棒などを持って運動する。 ・リズムに合わせて, 手を使って行う。 ・新しい動きを考え, 児童が創作する。 ・安全に操作する。
<p>III 活動</p> <p>A.体操</p> <ul style="list-style-type: none"> ・立つ, 座る, 横になるなどの基本の動き(頭を動かす, ひねる, 足・膝を上げるなど) ・1つか2つのシンプルな運動, 柔軟体操 ・スタンスとバランス(バランスジャンプ) ・スタンスのための体の調整(ストレッチ, つま先を触る, 体を反る) <p>B.リズムアンドダンス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろなステップ ・地域のダンス ・外国のダンス <p>C.陸上運動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・短距離走 ・リレー ・バトンパス ・高跳び ・幅跳び ・ボール投げ 	<p>III 活動</p> <p>A.体操</p> <ul style="list-style-type: none"> ・立つ, 座る, 横になるなどの基本の動き(大股で前へ, 中腰, 仰向け, うつぶせ, 膝抱え座りなど) ・1つか2つのシンプルな運動, 柔軟体操 ・スタンスとバランス(3人ピラミッド) ・タンブリング(前転, 後転, 側転) <p>B.リズムアンドダンス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろなステップ ・フィリピンダンス ・基本のリズム ・外国のダンス ・文化とダンス <p>C.バレーボール</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サーブ, レシーブ, トス, スパイク ・バレーボールの基本, ルール ・スポーツマンシップ 	<p>III 活動</p> <p>A.体操</p> <ul style="list-style-type: none"> ・立つ, 座る, 横になるなどの基本の動き(水平立ち, 仰向け, 膝抱え座りなど) ・1つか2つのシンプルな運動, 柔軟体操 ・スタンスとバランス(3人ピラミッド, 4人か5人のピラミッド) ・V字などのバランス, 手押し車 ・グループスタンス ・鉄棒, 雲梯 ・タンブリング <p>B.リズムアンドダンス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろなステップ ・フィリピンダンス ・外国のダンス ・文化とダンス <p>C.ソフトボール(野球), バasketボール</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スローイング, バッティングなど ・野球の基本, ルール ・ドリブル, パス, シュート ・バスケットの基本, ルール
<p>IV 文化とスポーツ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動会への参加, 運動の大切さ ・伝統遊び(スカカ, パティンテロ, ルクソンティニックなど) 	<p>IV 文化とスポーツ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動会への参加, 運動の大切さ ・伝統遊び(パロセボ, スキッピングロープ, ビクスビクスなど) 	<p>IV 文化とスポーツ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動会への参加, 運動の大切さ, 応援について ・運動会でのバレー, バスケ, 野球のいずれかの実施

3. 現地校訪問による調査（学校訪問及び授業参観，訪問授業，交流学习）

1) 公立小学校 Fort Bonifacio Elementary School（フォート・ボニファシオ小学校）

（訪問，授業参観，質疑応答による。平成 21 年 8 月 27 日実施。）

（1）学校概要

マカティ市にある公立小学校で，児童数 3,626 人，教職員数 94 人の大規模校である。午前（6 時から 12 時 30 分）と午後（12 時 30 分から 6 時 30 分）の 2 部制で授業を行っている。英語の授業も全学年で実施されている（英語の授業は幼稚園からあるようである）。1 年生から 3 年生は学級担任制，4 年生からは教科担任制となっている。経済的に豊かなマカティ市にあり，市から学用品などが支給されている。鉛筆，ボールペン，教科書，ノート，ワークブック，通学カバン（入学時に 1 回），制服（年間 2 着），マカティ内のスクールバスの支給がある。公立学校としては，比較的恵まれた学校といえる。しかし，都市部にあるため敷地が狭く，児童が運動したり遊んだりする場所はほとんどない。



写真 1 授業風景

（2）施設の様子および児童の様子

各教室は，日本の一般的な教室よりもひとまわり狭い。児童は小さなテーブルがついた木製の椅子をびっしりと並べて授業を受けていた。授業中立って移動できないくらいの狭さであった。学習している児童の反応はよく，全体的に自ら学ぼうとする意欲の高さを感じた。廊下や教室の壁面には，各種掲示物が貼られ，しっかりと学校の環境づくりがなされていた。校庭，プール，体育館といった体育施設はなかった。体育は，校舎前の広場（駐車スペース）で行われていた。我々が各教室を見学していると，児童がこちらを向いて起立してあいさつをしてくれた。生活面での指導がいきとどいていると感じた。



写真 2 授業中起立してあいさつ

（3）授業参観（体育科）

単元名「柔軟性・バランス感覚を高める運動」

G 5 学年（10 才），指導者：Mr.R.Arias 教諭，

場所：グラウンド（学校前広場）

a) 授業内容

○児童は，体操服（上は黄色い T シャツ，下は緑色のジャージ）で学習していた。「体育座り」ではなく，「あぐら」で教師の話の聞いていた。フィリピンでは一般的な座り方のようなのである。

○授業の 1 単位時間は 40 分。約 50 人の児童に対して，教師は 1 人で指導していた。

○授業の最初と最後は一斉に運動し，ウォーミングアップやクールダウンをしていた。それ以外は，グループ毎にそれぞれの運動を絵やノートに書かれた説明をたよりに取り組んでいた。約 5 分で次



写真 3 体育学習の様子



写真 4 体育学習の様子

の運動に移り、ローテーションをしていた。活動の途中、2回ほどリーダーが集められ、教師から新しい課題などの指示が出されていた。

○7人のグループが7つあり、それぞれのグループにはリーダーがいて、グループ毎で運動をするときには、リーダーが全て指示をしていた。各グループがリーダーを中心に主体的に活動していた。

○児童がローテーションで取り組んだ課題は次の通りであった。

- ・インバーテッドタッグ (V字バランスでひざを曲げる)
- ・ショルダースタンド (肩倒立)
- ・オーバーヘッドリーチ (仰向けで腰の位置を高くし、足を頭の方へ)
- ・フロントスケール (片足立ちで片足を前へ、両手は横へ水平に伸ばす)
- ・バックスケール (片足立ちで片足を後ろへ、両手は横へ水平に伸ばす)
- ・アラベスク (片足立ちで片足を後ろへ、両手は上方へ伸ばす)
- ・ニースケール (両手は地面につき、片膝立ちで片足を伸ばし上方へ)

b) 授業の感想

○各グループのリーダーも同じ学年であったが、メンバーに的確に指示をし、とてもしっかりしていた。他の児童も、リーダーの指示を素直に聞いて取り組んでいた。学習展開は全体的に単調であった。教具もシンプルであった。運動を絵で示したもの、自己評価シート、教科書を手書きで写したノートがある程度であった。そのような中で、児童は時間いっぱい意欲的に活動していた。学習規律、学習意欲の高さが認められた。

○学習の場所は、校舎前へのコンクリートが敷き詰められた中庭であった。周囲には車も駐車されていて、車が動く度に授業が中断した。体育は週に2回あるようだが、体育授業における運動量の確保は難しいと思われた。また、安全面でも危惧される面がある。

2. 私立学校 La Salle Green Hills Grade School (ラ・サール・グリーンヒルズ・グレイド・スクール)

(訪問、授業参観、質疑応答による。平成22年8月26日実施。)

(1) 学校概要

サンファン市にある私立小学校で、児童生徒数 3,126 人、教職員数 186 人の大規模校である。国内に17あるデラサール大学の系列校の1つで、男子校である。

学年は、K1 から K2 (Kinder), G1 から G7 の計9学年。学級数は、K1 と K2 が5クラスずつ、G1 から G6 が12クラス、G7 が11クラスある。各学級の定員は40人である。各学年には、成績上位者だけの特別クラスがあり、飛び級制度もある。規律やマナーが重んじられ、学級で規律委員がいる。高等部が併設されており、高等部からは多くの生徒が大学に進学する。



写真5 校舎

(2) 施設の様子および指導体制

校舎は、大規模校ということで教室数も多く、6階建ての校舎もあった。明るく開放的な様子であった。各教室は、日本の一般



写真6 グランド

的な教室と同様な広さで、一人一人等間隔に机を並べて座って授業を受けていた。各教室には PC が前方に設置されており、PC を活用しながらテレビ画面に映し出し、それを見ながら学習できるようにになっていた。体育施設は、陸上 400mトラック、体育館 2か所、プール、サッカーグラウンド、テニスコート、ビーチバレーコート、野球用グラウンド、卓球場などがあり、大変充実した施設である。

教科担任制で、各学年に 2名の体育教師が配置されていた。そのトップには、コーディネーターという、指導的立場の教員が配置されていた。コーディネーターが、各教師とミーティングをしながら授業作りをしていた。各教科にそれぞれ 1名のコーディネーターがいて、合計 7名のコーディネーターがいた。各授業には文書化された学習計画があり、各教師が作成し、コーディネーターと検討し、それに従って授業が進められていた。学習している児童は、静かに落ち着いて授業を受けていた。座っている姿勢は様々であったが、よく聞いて取り組んでいた。

(3) 授業参観 (体育科)

単元名：「卓球」

G 5 学年 (10 才) C クラス、指導者：Mr. Joel Sta. Ana 教諭

場所：教室、中庭、卓球場

a) 授業内容

○児童は体操服 (緑色の T シャツ, 緑色の短パン) で学習していた。

○授業の 1 単位時間は 80 分 (40 分の 2 コマ連続)。前半 40 分間は教室で講義を受け、後半の 40 分間で実技をした。約 40 人の児童に対し、教師が 1 人で指導していた。

○1つのスポーツ (単元) を 4~6 回に分けて計画的に授業が実施されていた。体育は週に 1 回行っていた。

○本時の大まかな時間の流れと、各場面の様子は次の通りであった。

- ・ 10:20…児童は教室に入り、体操服に着替える。着席をし、授業の開始の言葉を唱える。
- ・ 10:30…講義。講義内容は、「卓球のルール」、「サーブの仕方と構え方」、「フォアハンドリターン」であった。教室前方の画面を使って映像を映し、教師が解説した。時折児童からの質問があり、それに答えながら授業が進められた。画面に映し出された映像は、教師自らが作成したそうである。
- ・ 10:45…校舎中庭付近に卓球場があり、そちらに移動し、中庭で準備運動をする。
- ・ 11:00…実技。2種類のドリル練習を行う。教師の説明が長く、児童数に対して卓球台の数も少なかった。
- ・ 11:40…授業終了。



写真 7 体育館



写真 8 講義の様子



写真 9 準備運動の様子



写真 10 学習の様子

b) 授業の感想

- 恵まれた施設環境の中、安全に授業に取り組んでいた。
- 学習計画も文書化され、計画的に授業が取り組まれていた。
- 児童は比較的集中して授業を受けていた。
- 授業時間のうち、約半分は運動をせずに授業が進められた。卓球台等も学習者に対して少なく、運動量や練習量が不十分に思われた。実技中の児童の動きも、目標とされる動きとは差があり、講義で学習した通りのことが実技では、なかなか実践されていないように思われた。学習者に合わせて学習計画が立てられていたか、技能向上を効果的にねらえる学習内容であったか疑問に感じられた。

3. インターナショナル校 ISM: International School of Manila (インターナショナル・スクール・オブ・マニラ)

(訪問、授業参観、質疑応答による。平成23年9月12日)

(1) 学校概要

2002年、タギッグ市にあるMJS(マニラ日本人学校)と道を挟んで隣接した土地に移転した。1920年、アメリカ人とイギリス人の子どもの教育のために開校し、現在は多国籍の子どもを受け入れている。幼稚園、小学部(1年～5年)、中学部(6年～8年)、高等学部(9年～12年)で構成され、約2100名が在籍している。一貫教育の大規模校である。全学生のうち、フィリピン人(35%)、韓国人(20%)が多く、日本人も200名程度在籍している。小学部児童は約650人である。卒業後は、98%が大学に進学する。

(2) 施設の様子および指導体制

広大な敷地を有し、校舎も大規模校ということで教室数が多い。明るく開放的な校舎であった。大規模な講堂、2名の医師がいるクリニック、3名のベビーシッターがいる託児所(教員の子どものための託児所)なども設置されていた。

体育施設では、小学部、中学部、高等学部それぞれ体育館、芝生のグラウンドがあるほか、陸上競技場(400mトラック)、プール(25m)、低学年用プール、深いプール(水深4m)などがあった。体育館の一角には、体操競技用の器具が設置された本格的な体操競技専用練習場、ロッククライミング用の設備も設置されていた。体育用具の種類や数も豊富であった。体育施設・設備はたいへん充実していた。

ここでは、約200名の教員が働き、このうち小学校の教員が約60名いる。担任の他、アシスタントティーチャーも多く在籍し、手厚い指導が可能な体制といえる。1クラスの児童数は23名くらいまでで、体育科のクラスも28名くらいまでになっており、少人数での学習が保障されていた。各学年の児童は、時間割に合わせて教室を移動して各授業を受けていた。

(3) 体育の指導体制について

(体育教官室訪問、P.E.Program LeaderのMr. Steve Doddへの聞き



写真11 グラウンド



写真12 体育館



写真13 プール

表3 ISM 第5学年の体育学習内容 (ISM 指導計画「Unit Map」より抜粋)

	実施時期	運動領域	主な指導内容
1	第1週から(7週間)	Movement (器械運動など)	マット・鉄棒・平均台・跳馬を使った運動 組体操「ピラミッド」
2	第8週から(10週間)	Invasion Games (侵略型ゲーム)	フットボール
3	第18週から(7週間)	Strike and Field (野球型ゲーム)	ソフトボール
4	第25週から(5週間)	Net Games (ネット型ゲーム)	バレーボール
5	第30週から(6週間)	Aquatics (水泳)	水泳(クロール, 背泳ぎ, 平泳ぎなど)

取りによる。)

体育教官室(P.E.ティーチャーズルーム)を訪問した。体育教師総勢13名で体育学習を指導している。このうち、1年生から4年生までを4名、5年生から8年生までを4名の体育教師がそれぞれ指導にあたっている。

5年生以上は、70分授業を週2回、体育の学習を受けている。加えて、音楽、美術、体育から選ぶ選択授業が週に2回あるので、体育を選択した場合は、70分の体育の授業を週に4回学習することになる。P.E.プログラムリーダーのステーブ教諭は、週に70分授業を15コマ行っていた。

学校独自の学習計画が細かく決められており、各学年の年間の学習計画はもちろん、指導する各運動領域の内容も文書化されている。例えば、第5学年の学習計画は、年間で5つの運動領域で構成されているが、それらの学習計画をA4版でプリントアウトすると19枚に及ぶ。ステーブ教諭が、各学年の各授業について日時と指導する教師、指導する場所等を計画して、各体育教師に伝達して日々の体育を運営していた。また、細かな指導計画や指導する日時、クラス、場所等が、全てコンピューターで管理されていて、各教師の勤務も把握することができた。

なお、体育教師は課外のクラブ活動の指導も行っている。その指導に対しては、加えて多少の報酬があるそうである。クラブ活動を管理するオフィスも体育教官室の隣にあり、アスレチックディレクターが常駐している。練習日時や練習場所の調整、対外試合の調整等、各クラブチームのマネジメントを行っている。

(4) 授業参観

①選択体育「チームスポーツクラス」 8:45~9:55 (場所：グラウンド「MSフィールド」)

単元名：「フットボール」, G6学年(11才), 指導者：Mr. Hadasah Castro 教諭

a) 授業内容

○児童は、体操服(緑色か白色のTシャツ, 黒色の短パン)で学習していた。



写真14 豊富な体育用具



写真15 体操競技と
ロッククライミングの施設



写真16 授業の様子

○授業の1単位時間は70分。本時は、選択体育で、音楽、美術、体育のうちで体育を選択した児童が学習していた。8人の児童に対して、教師は1人で指導していた。

○20分程度トレーニングを行い、5分間パス練習、そして30分程度ゲームを行った。その都度作戦タイムを設け、教師もゲームに加わりながら、戦術の指導もしていた。

○本時の大まかな時間の流れと、各場面の様子は次の通り。

- ・8:45…集合しトレーニングを行う。どの単元でも同様に行っているトレーニングのようで、ダッシュなど比較的ハードな内容だった。
- ・9:10…パス練習。楕円形のフットボールを投げる練習をした。
- ・9:15…集合し目標やルールの確認をする。そして「フットボール」のゲームを行う。
- ・9:48…集合し片付けを協力して行う。終了。



写真17 授業の様子

b) 授業の感想

○恵まれた施設環境の中、安全に授業に取り組んでいた。フットボールもタグを使用し、タックルの代わりにタグを引っばるようにし、けがを防いでいた。タグは引っばっても外れないものであった。

○授業のはじまりや終わりに号令によるあいさつはなく、違和感を感じた。

○児童は、フットボールにまだ慣れていない学習段階のようとうかがえた。暑い屋外であったが、あまり休むことなく運動を続けていた。途中で、水分補給や休憩をとっても良いと感じた。



写真18 授業の様子

②体育科 10:15～11:25 (場所：体育館「MSジム」)

単元名：「バスケットボール」, G8学年(13才),

指導者：Mr. Dave Allen 教諭

a) 授業内容

○生徒は、体操服(緑色か白色のTシャツ, 黒色の短パン)で学習していた。

○本時は、中学2年生にあたるクラスの体育で、バスケットボールの授業の1時間目だった。生徒は23人、教師は1人で指導していた。

○本時の大まかな時間の流れと、各場面の様子は次の通りであった。

- ・10:15…集合し、教師の話の後、ウォームアップ及びスキルアップのためのドリブルランニングを約10分間行った。ドリブルランニングとは、4人組となり、体育館に引かれたラインの外を一周ずつドリブルして、10分間交代しながら続けるものである。
- ・10:30…約40分間を使ってスキルテストを行った。バスケットボールの単元の最初と最後の時間にを行うテストである。以下の10項目が書かれた記入用紙を個々が持ち4人組で実施した。

表4 Basketball Skills Assessment (バスケットボール技能評価)

1	Left hand weave 30 sec	6	Chest pass against wall 2m 30sec
2	Bank shot /10	7	Shoot from front 3m 30sec
3	Right hand 20m speed dribble 30sec	8	Dribble around body 30sec
4	Figure 8 through the legs 30sec	9	Left hand 20m speed dribble 30sec
5	Right hand weave 30sec	10	Bounce pass against wall 30sec

- ・ 11:10… 2対2でパスとシュートの練習。4人組をグループをつくり、6か所のバスケットリングの下で行った。
- ・ 11:20… 集合し、教師の話の後、片付けをして授業を終了した。

b) 授業の感想

○23人のクラスには十分な体育スペースや施設環境の中、指導計画通りに本時が実施され、無理のない、ゆったりとした学習展開であった。スキルテストやスキルトレーニングの要素が多く、淡々とした授業ではあったが、生徒は意欲的に取り組んでいた。

○G11(16才)の生徒が1名、アシスタントとして本時の体育学習を手伝っていた。G11の生徒にとっては、別の学習の一環のようであった。

4. 私立学校 Don Bosco School(ドンボスコ・スクール)

(現地校での授業実践 平成23年12月10日)

マカティ市内にあるドンボスコ・スクールは、平日は通常の私立学校として多くの児童生徒が通学している。校内には寮があり、16歳～20歳の少年が寮生活を送りながら、自動車やバイク工場などで働くための技術を学んでいる。そして、それらの学生に対し、土曜日にはボランティアによるサポートで課外授業が行われている。その課外授業に他の日本人学校教師2名とともに招かれ、体育科の授業を行った。日本で行われているスポーツとして、空手、長縄とび、ドッジボールを紹介した。私はドッジボールを担当し、高校生に指導した。ドッジボールは、フィリピンではほとんど行われておらず、授業を受けた高校生もドッジボールを知らなかった。高校生に「日本の小学生は、休憩時間にいつもやっているスポーツだ。」と伝えると驚いていた。

実際行ってみると、生徒の興味関心は非常に高く、歓声をあげ積極的に取り組んでいた。ラインを踏み越えるなどの反則は多かったが、投げる、パスをする、受けるなどのボールを扱う技能は高く、コートを移動する動きもスピード感があり、身体能力が非常に高かった。3グループをローテーションして指導したが、空手や長縄も非常に意欲的に取り組んでいた。

短時間ではあったが、現地の生徒と体育指導を通してふれ合うことができた。日本では「体ほぐしの運動」が位置づけられているが、体育を通してすぐに心の交流が生まれるのは、体育科の利点と言える。



写真19 授業前のあいさつ



写真20 ドッジボールの授業



写真21 授業後、生徒と記念写真

5. 交流学习による現地校児童の様子

(1) 交流した学校と活動内容

フィリピンに滞在した3年間で、マニラ日本人学校(本校)の児童を引率して交流学习を行った現地小学校と主な活動内容は以下の通りである。活動の様子から、現地校児童の様子にふれておく。

a) International Christian Academy (ICA) との文化交流会

- ・ 平成21年9月11日、第1学年を引率

- ・本校による活動…折り紙「紙鉄砲」、日本の歌「ひらいたひらいた」と踊り
- ・相手校による活動…フィリピンの果物紹介、壺のペインティング
- ・平成22年7月9日、第5学年を引率
- ・本校による活動…福笑い、紙飛行機、だるまさんが転んだ
- ・相手校による活動…フィリピンのお菓子「パリタウ」作り、歌と踊り
- ・平成22年7月8日、第5学年を引率
- ・本校による活動…日本の遊び(紙飛行機、けん玉、コマ、割り箸鉄砲、だるまさんが転んだ)
- ・相手校による活動…フィリピンの観光スポットの紹介、フィリピンの遊び「シクロット」

b) Everest Academy との文化交流

- ・平成21年10月28日、第1学年を引率
- ・本校による活動…折り紙「紙鉄砲」、日本の歌「ひらいたひらいた」と踊り
- ・相手校による活動…ホセリサール(フィリピンの英雄)がかいた絵本「さるとかめ」を読み、お話の絵をかく。

c) British School Manila (BSM) との交流

- ・平成22年2月3日、第1・2学年を引率
- ・本校児童による発表…踊り「ソーラン節」の発表。
- ・平成23年2月1日、第5学年を引率
- ・本校児童の計画による、サッカーとドッジボールのスポーツ交流会。

d) Bobon Elementary School との文化交流会

- ・平成23年1月27日、第5学年を引率
- ・本校による活動…合奏「威風堂々」、合唱「ありがとう」、紙飛行機作り、だるまさんが転んだ
- ・相手校による活動…フィリピンのダンス、グループ作りゲーム
- ・平成24年1月26日、第5学年を引率
- ・本校による活動…合唱とリコーダー「赤い屋根の家」、合唱「ビリーブ」、だるまさんが転んだ
- ・相手校による活動…フィリピンのダンス、フィリピンのゲーム「オープン・ザ・バスケット」

(2) 交流学習での児童の様子

現地校では、どの学校も英語を学習しているので、本校でも英語でのスピーチを用意し、英語で交流をした。様々な活動をしながら、どの学校との交流でも児童はすぐに打ち解け合い、仲良く活動をした。現地の児童は、たいへん明るく素直で、交流学習に積極的であった。リズム感が良くダンスも上手だ。交流では、特に「スポーツ交流」や「だるまさんが転んだ」など、体を動かしながら交流する活動は大いに盛り上がり、打ち解けるのも早かった。国や文化の違いがあっても、運動を通してすぐに心を通わせることができる。その「交流する力」には驚くべきものがあった。



写真22 ICAとの文化交流会
「だるまさんが転んだ」



写真23 BSMとのスポーツ
交流会「ドッジボール」



写真24 Bobon 小学校との交流会
「フィリピンのダンス体験」

おわりに

1) フィリピンにおける教育制度と体育科教育のガイドラインについて

フィリピンでも小学校は、義務教育で無償制度もあり教育制度の一定の整備はなされているが、実際は教育環境として厳しいものがあることが分かった。多くの公立小学校では、児童は教科書を個人の物とせず、該当学年の教科書を一年間借りて大切に使い学習している。本校児童の交流学習で訪問した公立小学校では、教師用の教科書さえも不足し、教師が黒板に学習内容を書き、児童は教科書もノートもない状況で学習していた。さらには、同じ公立小学校でも、校舎、学校設備等が地域によって大きく違っていた。田舎の公立学校になるほど教育予算が充てられていないことがうかがえた。日本の教育環境の充実ぶり、そして日本で学べることの素晴らしさを再認識できる。

フィリピンの公立小学校では、日本と比べると体育の時間数、運動領域とも少ない。体育という一つの教科というよりは、マカバヤン（国民教育）の一部という位置づけであり、フィリピンの伝統文化を重視した内容となっていた。とりわけ、ダンスを積極的に学習することは、リズム感がよくダンスの上手なフィリピンの国民性を裏付けるものであった。また、良い姿勢や体の矯正法、安全な移動法など生活に密着した姿勢や動きについて体育科として指導する点も特徴的である。ただし、そのような領域での運動量は十分ではないと考えられる。授業時間数も少ないため、児童にとって運動量の確保は難しいと言える。また、施設や教具も整っていない学校も多いため、充実した授業を行うことは難しいと感じた。一方で、体力テストを行う点や、バスケットボール、バレーボールなどの近代スポーツを内容に位置づけている点は、日本と似ている点である。

保健にあたる領域は、理科と一緒に教えられている点も興味深い。現地の教科書を見ても、理科の中に保健の内容が盛り込まれた構成であった。日本でも、総合的な学習の時間や生活科などが時代とともに新たに生まれてきた教科もあるが、教科や学習領域についても、国の考え方や時代背景が影響していると感じた。体育科の学習内容は、その国の考え方によって大きく違うことが分かった。

2) 現地校訪問による調査について

フィリピンの公立学校、私立学校、インターナショナル校と各校種の実態を垣間見ることができた。私立学校、インターナショナル校は、校舎、設備、教具等、公立学校に比べていへん充実していた。日本の公立学校よりも充実している点が多かった。教員数も多く、授業のカリキュラムの編成や教員をサポートする教職員も配置され、教師の仕事の環境としても充実していた。一方で、充実した施設や指導体制を実現するために、授業料はかなり高額であることがうかがえた。フィピンでは、国民の所得の格差が大きいと言われており、それが教育環境にも影響していることがうかがえる。

体育科の授業参観は、各学校の特徴が色濃く表れていた。マカバヤンをもとに指導している公立学校と、独自のカリキュラムで指導している私立学校やインターナショナル校とでは大きく違っていた。特に私立学校やインターナショナル校では、学習計画が細かく文書化され、独自の学校理念のもと、計画的に授業が取り組まれている点で、教育環境の水準の高さがうかがえた。

ただし、学習展開には、工夫の必要性を感じる授業が多かった。運動量や練習量の確保、技能向上に向けた工夫と言う点で改善の余地が多々ある。個々の教師の指導技術にも原因があると思われる。公立学校をはじめ、各校種の学校では、日本のように教員同士による授業研究を行っていないように思われた。日本では当然のように行われている校内や各都市の研究会等で実施されている授業研究の実践が、有意義であると改めて考えさせられた。本研究で考察したフィリピンにおける体育科教育をはじめ、フィリピンで学んだ教育の現状や経験した教育実践を、今後の体育科をはじめとする様々な授業実践に活かしていくものとする。